

1 鏡川清流保全基本計画

- 昭和44年に「高知市民憲章」を制定
第1条「鏡川を清潔なまちのシンボルにしましょう」
- 平成元年に本市独自の「鏡川清流保全条例」(鏡川条例)を制定
市民や事業者、行政の責務、役割を定め、お互いの協力により、「市民の心のふるさとである鏡川の清流を保全し、次世代への引き継ぎ」の実現
- 「鏡川清流保全基本計画」(鏡川計画)は本市独自の行政計画
これまで、平成3年度、18年度に鏡川計画を策定。平成29年度に**現行の2017鏡川計画**を策定、基本理念は「**鏡川～森と海をつなぐ環境軸～**」

- これまでの鏡川計画における**全体目標のキーワード**
「健康な川づくり」「環境軸」
- これまでの鏡川計画における**共通の視点**
「鏡川の水を守る」「自然環境と景観の保全」「人づくり・まちづくり」

鏡川計画は、これまで一貫して、鏡川を本市の重要な「環境軸」として位置付け、河川環境の保全といった**自然環境の視点にとどまらず、本市全体のまちづくりとの関係性を重視**しながら、行政、市民やNPO等の市民団体や事業者、教育研究機関などの**多様な主体の協働・連携を推進**

- ◆ 2017鏡川計画の基本理念は「森と海とまちをつなぐ環境軸」
計画の理念を後世に受け継いでいくことを基本として策定
- ◆ 目指す姿の柱は「水と水辺」「森」「生きもの」「景観」「まち・ひと・しごと」
100年後も残したい鏡川と流域の姿の実現を目指す

3 鏡川清流保全基本計画と総合計画の共通点

- 2011総合計画の「環境」を基軸とする理念は、鏡川計画の理念と合致
※ 環境を基軸と捉えた本市のイメージ図は共通
- 環境分野と各分野との連携は、新たな鏡川計画においても、その継承による事業効果の最大化が必要

2 総合計画

- **総合計画**は、行政分野を全て網羅し、中長期的な視点に立った総合的な計画
- 本市では、地方自治法での策定義務化以前の昭和42年に最初の計画を策定
- 現行の2011総合計画は平成23年3月に策定
将来の都市像「**森・里・海と人の環 自由と創造の共生都市 高知**」
※まちづくりの理念「豊かな自然とそこに住む人々が共生しながら、さらにまちの発展が調和する、「環境」を基軸とした新しい共生文化を自由な精神を持って創造する都市をめざす」

- 自然と人とまちの共生: **自然との共生を基本**としながら都市と産業のあり方を再構築
「**自然と人とまちが調和し、自立した持続可能な都市**」

2011総合計画は、前計画である2001総合計画のインフラ整備を中心とした「ハード」から「ソフト」への転換を目指したもの

- ◆ 総合計画の推進には「自然の大切さへの気づきと他者を思いやる方向への価値観の転換」による
「**新たな共生社会**」の構築が必要、あらゆる行政分野の基礎
- ◆ 環境関連の政策、施策は
「1丁目1番地」に当たる施策の大綱「**共生の環**」に位置付け

4 今後の方向性

- 2011総合計画は令和8年度末で廃止、令和9年度を始期とする「(仮称)高知市未来ビジョン」を策定 → **新たな鏡川計画と同じ始期**
- 総合計画においては、解決すべき課題は「社会・経済情勢の急激な変化や、人口減少・少子高齢化の急速な進行」への対応
- 鏡川計画は、2026(R8)年度は、新たな総合計画策定の進捗状況を確認しながら、予定通り2027(R9)年度を始期とする次期鏡川計画を策定
- 総合計画の進捗状況によっては、現在の計画期間を1年間延長して、2028(R10)年度に次期鏡川計画を策定することも検討

目指す森の姿

- 清らかで豊かな水を育みたくわえる森林土壌
- 豊富な木材・林産物が育まれる森林
- 癒しやレクリエーションの場として活かされる森
- 災害が起きにくい手入れの行き届いた山

目指す景観の姿

- 豊かな自然環境に育まれた歴史的文化的価値の高い景観
- 自然と共生した暮らしが営まれる農山村の風景
- 市民の関わりによって守り活かされる流域固有の景観

目指す生きものの姿

- 多様な生きものからなる健全な流域の生態系
- 川を自由に行き来するたくさんの生きものたち

目指すまち・ひと・しごとの姿

- 鏡川を誇りに思い、遊びや学びに鏡川を活発に利用する人々
- 環境に配慮しながら美味しい作物を生産し、活発化する農業
- 川の恵みと伝統文化を守り活かすまち

目指す水と水辺の姿

- 暮らしと産業を支える安全でおいしく飲める水
- 瀬と淵のある自然な姿を保ち、多様な生きものがたくさんすめる環境
- いろいろな遊びが楽しめる水辺
- 治水と環境保全のバランスのとれた川



未来の高知市を一緒に につくりましょう!

2030年の高知市(将来の都市像)

「森・里・海と人の環 自由と創造の共生都市 高知」

先人から受け継いだ自由と創造の精神に満ちた
豊かな自然と人々の共生に、まちの発展が調和する都市

わたしたちのまち高知市は、太平洋に開かれた豊穡の地にあり、豊かな自然と長い歴史の中で培われた、明るく闊達で慣習にとらわれない、自由と創造の精神に満ちた土佐の風土の中で発展を続けてきました。

このまちを未来に向かって持続的に発展させ、次世代へと伝えていくために、森に発し、里を経て、海へと通じる清流をはじめとする豊かな自然とそこに住む人々が共生しながら、さらにまちの発展が調和する、「環境」を基軸とした新しい共生文化を自由な精神を持って創造する都市をめざしています。

わ
環

2011 高知市総合計画のキーワードで、より良い自然環境と社会環境の両方を次世代につなげたいという思いを込めています。

